九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

満洲語文語における温度形容詞について : 『満文金瓶梅』を資料として

早田, 輝洋

https://doi.org/10.15017/2332586

出版情報：文學研究. 87, pp.101-152, 1990-03-31. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

満洲語文語における温度形容詞について

——『満文金瓶梅』を資料として——

早　田　輝　洋

0．はじめに

満洲語文語の温度形容詞について若干の報告を試みる。温度という範疇はかなり限定せられた意味分野と考えられ，種々の言語の語彙的意味の記述を試みる格好の場となっている。筆者は意味論に関しては全くの素人であるが，『満文金瓶梅』を多少見ている折りでもあり，また九州大学文学部在任中の松田伊作教授の意味論に関するご指導・ご研究も僅かながらは漏れ伺っていたものである故，門前の小僧習わぬ経は読めぬにしても，せめて『満文金瓶梅』の温度形容詞の資料だけでも紹介して，語彙的意味論の専門家および満洲語に興味を持つ方々の参考に供したいと思う次第である。ただ紙幅の関係もあり，資料を十分に提出できないのは遺憾である。

資料は『満文金瓶梅』gin-ping-mei bithe（康熙47年（1708）序）序文および全百回の全文を用いる。全体としては僅かではあるが，刷りが悪くて読めないところもある。靜嘉堂文庫所蔵本の写真版とChinese Materials Center, INC. 発行の影印本（San Francisco 1975）さらに大阪外国語大学所蔵本の写真版を比較して見ているが，最後のものとは未だ殆ど比較校訂を施していない。満文訳の底本になる漢文原本は，竹坡本系統という以上には分っていないので，文楽出版社影印の2本（康熙乙亥（1695年）皐鶴堂刻本張竹坡評点『天下第一奇書金瓶梅』の大字本——扉頁上端に「康熙乙亥年」，框内右上方に「李笠翁先生著」，中間に大字で「第一奇書」，序に「康熙歳次乙亥清明中浣秦中覚天者謝頤題於皐鶴堂」とある，半葉11行，行22字のもの——と小字本）を中心に，時に手もとの竹坡本の一本である影松軒本を見て，その該当漢語を原漢

語として参考に挙げる。諸本の厳密な校訂は，それ自体また重要な仕事であり，別に行われなければならないが，それが完了するまで言語の研究を我慢しているわけにも行かない。

『満文金瓶梅』のテキストの電子計算機への打込みは筆者自身が行ったものであるが，用例の検出は，いつもながら福井玲氏作成のKWICによっている。

満洲語は過去の言語であり，現在完全な母語話者がいないことは，意味の記述を非常に困難にしている。清朝時代の満洲語の流れを引き生きている言語は，中国新疆維吾尔自治区で話されている錫伯語だけと言ってよい状態であるが，これも清朝時代の満洲語とは，意味・文法ともにかなりの違いが出ている。(第5節参照)

本稿では，さきにも触れた1708年の序文を持つ満洲語訳『金瓶梅』の全訳文およそ50万語余りを対象とする。清朝時代の満洲語文語（古典満洲語ともいう）の辞書・文法書は，清朝時代のものから現代に到るまで若干はあるが，きわめて不満の多いものばかりである。

なおここで「温度形容詞」というが，満洲語文語においては，形容詞と名詞とは形態上の区別が一応ない。ここでは便宜上それを「形容詞」と呼ぶことにする。実際には，動詞によって温度関係が表現されることも多いのであるが，今回，動詞については，形容詞から派生したといえそうなものだけを対象に入れ，それ以外の動詞は原則として扱わない。

1．頻度

およその出現傾向を知るために，下に『満文金瓶梅』中の温度形容詞の出現度数を示した。括弧〈　〉で括られているのもは形容詞から派生した動詞である。

halhūn	99（含　halhūkan saka 1）
	温度形容詞でない連語　haji halhūn 47　は除いた
šahūrun	89（含　šahūrukan 1）
〈šahūra(bu)-〉	〈25〉

beikuwen, beiguwen	38	
〈beikuwe-〉	〈1〉	
serguwen, serkuwen, seruken	26	
〈serguweše-〉	〈7〉	（含　serkuweše-）
halukan	19	（含　halukasaka）
buluka(n)	8	
fiyakiyan	1	
〈fiyakiya-〉	〈2〉	

他に，以下の如き「温度形容詞・動詞に類するもの」があるが，併記したおよその訳語からも分るように，純粋に温度を対象とするものとは言えないもの，及び形態的に少なくとも『満文金瓶梅』中の温度形容詞からの派生でない動詞，逆に beye-のように温度形容詞を派生する動詞等であり，今回の考察から外した。

wenje(bu)-	109	酒がまわる。あたためる。燗をする。
wenjendu-, wenjenu-, wenjedu-	7	皆酒がまわる。
wenjehun	30	にぎやかな。にぎわっている。
simacuka	33	ものさびしい。わびしい。
beye-	30	冷える。風邪をひく。
fundehun	9	淡い。蒼白な。
gece-	7	こおる。凍える。
singkeyen	6	寒々とした。陰々とした。
sesukiye-	3	ぞっとする。みぶるいする。
hūkta(mbu)-	3	蒸す。
niyekše-	2	ぞくぞくする。寒さで震える。
gūngka-	1	蒸し蒸しして暑い。

2．原漢語

以下に，上の温度形容詞とその派生動詞の原漢語を挙げる。度数の高いのもから見て行く。また参考までに「温度形容詞・動詞に類するもの」の原漢語も後に付して置く。これらも漢語としては，温度形容詞と同じ形態素がよく使用されていることが分る。

○halhūn　98　熱62，暖・煖21，暑7，温3，その他
　halhūkan saka　1　熱熱

haji≪親しい・懇ろな≫と連結して使われる　haji halhūn は47回も出ているが，温度形容詞ではない。原漢語の「恩愛」「恩情」「綢繆」「繾綣」「温存」などを訳したものが多く，男女・母子・父子・義兄弟・親戚等の間の愛情の深いことで，「熱々」「深い仲」「親密」などと訳せる。『金瓶梅』では男女間のことが多い。

○halukan　18　煖・暖13，熱2，その他
　halukasaka　1　熱熱
○buluka(n)　8　温7，その他
○fiyakiyan　1　暑
　fiyakiya-　2　炎熱　炎蒸
○šahūrun　88
　šahūra(bu)-　25　冷64，寒33，凉14，その他
　šahūrukan　1
○beikuwen　38　（含　beiguwen）
　beikuwe-　1　18，寒14，寒冷7
○serguwen　26　凉20，その他
　serguweše-　6　納凉3，凉2，歇凉1

以下に「温度形容詞・動詞に類するもの」を挙げる。

○wenje(bu)-　109

wenjendu-, wenjenu-, wenjedu- 7

wenje-には他動詞と自動詞とがある。wenjebu-は全て他動詞 wenje-の使役動詞である。また wenjedu-, wenjendu-, wenjenu-はすべて自動詞である。

他動詞 wenje-, wenjebu- 篩 30, 盪 15, 焼 15, 熱 5, その他

——≪（酒・茶・水・部屋）などを沸かす・煖める≫

自動詞 wenje-, wenjedu-, wejendu-, wejenu-

濃 9, 暖・煖 7, 酣 7, 闌 4, その他

——≪酒がまわる（ほろ酔い～半酩酊状態になる）≫

他動詞の wenje-の結果は wenjehun（次項）でなく，温度形容詞 halhūn である。

○wenjehun 30 熱鬧 8, 興 3, 豪華 3, 栄華 2, 熱 2, 煖 2, その他

繁華, 旺処, 殷実, 盛, 宣揚, ……

○hūkta- 2

hūktame fiyakiyara 炎熱 1, hūktame halhūn 炎熱 1

hūktambu- 1 焼

○ gūngka- 1 熱刺刺

○ simacuka 33

寒 3, 空落落 2, 寂寞 2, 凄凉 2, 冷 2, 冷清清 3,

その他

○ beye- 30 冷 14, 寒 5, 寒冷 4

○ fundehun 9

fundehun simacuka 寂寞, 空落落, 冷清清, 冷清

fundehun 暗, 寂寞, 淹淡, 淡, 冷落

○ gece- 6 凍 4, その他

○ singkeyen 6 寒 4, 冷 2

○ sesukiye- 3 冷戦 2, 發寒 1

上の原漢語を見ただけでは各形容詞の意味の違いはもとより，温度形容詞か

否かも分らないものが多い。温度形容詞の一部に限ってみて，例えば，halhūn と halukan と bulukan について下の原漢語を見ただけで分ることは，温度の相対的な高さの違いを超えるものではない。数字は頻度である。

halhūkan		halukan		buluka(n)	
熱	62	熱	2		
暖，煖	21	煖，暖	13		
暑	7				
温	3			温，温温児，微温	7
その他		その他			

清朝時代の代表的な二つの辞書の記述は，以下の通りである。満洲語には直訳を【　】に入れて下に付す。用例はすべて略す。

『御製清文鑑』（康熙 47 年（1708）序）

HALHūN：　yaya jetere omire jaka, angga, gala halarangge be,
【すべて食べたり飲んだりするもので，口や手が火傷するのを，
halhūn sembi.
HALHūN という】

HALUKAN：majige halhūn be, halukan sembi.
【少し HALHūN なのを HALUKAN という】

BULUKAN：angga gala halarakūngge be, bulukan sembi.
【口や手が火傷しないのを BULUKAN という】

『清文彙書』（乾隆 16 年（1751）初刻）

HALHūN：　温風之温　冷熱之熱

HALUKAN：略熱熱。飽煖之煖。温温的。奥。

BULUKAN：温煖之温。薬性温和之温。温而不湯手嘴之温

中国で出た最新の満漢辞書『簡明満漢辞典』（河南大学出版社 1988）

HALHūN：　［形］①温　②熱

HALUKA：　［形］熱，温，暖

BULUKAN：［形］温和，温

西欧の代表的な辞書 *Handwörterbuch der Mandschusprache.*

（E. Hauer 1952－55）

HALHūN：（mong, *halagun*）Hitze, heiß.

HALUKAN：ziemlich warm, angewärmt, lauwarm.

BULUKAN：lauwarm.

日本で出た最新の辞書『満洲語文語辞典』（福田昆之 1987）

HALHūN：『形』(1)暑い．(2)熱い．(3)あたたかい．(4)『名』熱

HALUKAN：『形』あたたかい．暖かく．

BULUKAN：『形』ぬるい．微温の．温かい．

訳語としては上のようになるのであろうが，それぞれの単語の意味がちっとも分らない。初代の『清文鑑』が一番説明的なのであるが，その説明がまた問題である。halhūn は「火傷をする」ほどの熱さばかりではない。halhūn な酒やお茶を飲むのである。お茶は飲むときに多少さまさないと火傷もするであろうが，酒はそのまま飲んでも火傷しない。しかも，食べたり飲んだりするものばかりでなく，気温にも halhūn は用いられるのである。この三語がともに「温」なり「あたたかい」なりであり，halukan も bulukan も lauwarm では区別がつかない。この「火傷する」にあたる『清文鑑』の動詞 hala-も，『大清全書』の「盪」，『清文彙書』の「湯」も問題である。高温ではあるが必ずしも「火傷」をするとは限らない温度にも用いられる。

低温側の単語も事態は同様である。たとえば，šahūrun と beikuwen はどう違うか。原漢語は以下の如くである。

○šahūrun	88	冷	64	
šahūra(bu)-	25	寒	33	
šahūrukan	1	凉	14	その他
○ beikuwen	38	冷	18	
（含 beiguwen）		寒	14	
beikuwe-	1	寒冷	7	

頻度に違いはあるが，ともに「冷」であり「寒」である。šahūrun の方に多少

「凉」がある。

辞書類の記述数種を見ると以下の通り。用例はすべて略す。

『御製清文鑑』(康熙 47 (1708) 序)

šAHūRUN: beikuwen be, šahūrun sembi.

【BEIKUWEN をšAHūRUN という】

BEIKUWEN: šahūrun de beyere be, beikuwen sembi.

【šAHūRUN で BEYE-するのを BEIKUWEN という】

(BEYE-: beikuwen de beye šahūrun be, beyembi sembi.)

【BEIKUWEN で体がšAHūRUN なのを BEYE-という】

『清文彙書』(乾隆 16 年 (1751) 初刻)

šAHūRUN: 寒。凡吃的物冷熱之冷

BEIKUWEN: 冷熱之冷。

『簡明満漢辞典』(河南大学出版社 1988)

šAHūRUN: [形] 寒冷

BEIKUWEN: [形] 冷

Handwörterbuch der Mandschusprache. (E. Hauer 1952 - 55)

šAHūRUN: Kälte, kalt.

BEIGUWEN, BEIKUWEN: Frost.

『満洲語文語辞典』(福田昆之 1987)

šAHūRUN: (1) 『形』寒い. 冷たい [S【合璧西廂記】130 a] .

(2) 『名』寒さ.

BEIKUWEN: 『名』=beiguwen. 寒さ.

『御製清文鑑』は, 典型的な循環辞書である。他の辞書も, この二語の区別を明示していない。この二語の別を品詞の違いとしているのは当らない。その点は,『簡明満漢辞典』がともに形容詞としているのが妥当だと考えられる。満洲語では, 形容詞が名詞にも用いられることは分っているからである。

既存の辞書を見ても翻訳の原本を見ても単語の意味はよく分らない。そこで, 一応, 形容詞の形容の対象という観点から見直してみたい。

3．各温度形容詞とそれが形容している物

温度形容詞の形容のしかたを見ると，(1)客体的な対象物の温度と，(2)人体の体内的温度調節機構——熱的中性域内では血管の拡散・収縮で処理し，それを越えた高温では発汗，それを下回る低温では震えを来す等——に関わりながら多少主体的な温度感覚，この両面が関係していると考えられる。ここでは假に客体的な前者を「対象物の温度」，やや主体的な後者を「体温感覚」と呼んでおく。「対象物の温度」でも人間が問題にする場合は“温度感覚”に相違ないのであるから，このような呼び方は問題であり，はっきり言って無意味である。しかし，本稿はこの二つの範疇の本質を探求するのが目的ではなく，言わば，その二類の別は既知のものとし，特定の満洲語の単語の意味・用法を見ることを主眼としているゆえ，深く追求せず，この2種の呼び方を記憶の便のためのレッテルとして用いることにする。種々の言語の語彙項目の用法を調べること自体，問題の2類の別の本質の解明にも——悪循環に陥ることなく——資することと信ずる。

「対象物の温度」というが，主語に≪天≫≪季節≫≪頃おい≫が付いていれば直ちに「対象物の温度」だ，と解するわけにはいかない。日本語で「サムイ季節」と言っても，サムイはここでいう「体温感覚」であり，「対象物の温度」を表すツメタイと対立している——これまた問題である。同じ形容詞でも，例えば，halhūn や halukan はどちらも「対象物の温度」と「体温感覚」との両方を表す。しかし，šahūrun と beikuwen は，前者は「対象物の温度」，後者は「体温感覚」と，はっきり分れるようである。これを吟味する必要がある。

まず，基本的と思われる四つの形容詞 halhūn，halukan，beikuwen，šahūrun から見て，次ぎに bulukan と serguwen（serkuwen，seruken）を見たいと思う。『満文金瓶梅』の温度形容詞全用例に前後の文脈を付して日本語に訳し，原漢文を併記して示す。満文原文は，本稿の末尾にまとめて載せる。

○ halhūn（halhūkan saka 1例を含む）

〈天，時候，気温〉	（六月の）halhūn の頃でした	伏暑天気
	（六月の借金は）halhūn のうちに（返すもの）	熱
	halhūn な時だし	天気暄熱
	halhūn な陽気	天下熱
	（この）halhūn な（時節の有様を）	熱(陽気)
	（雨が）halhūn を洗い流し	洗炎駆暑
	（陽気のこの）halhūn なことを	天熱
	（この前のときは陽気は）halhūn だった	熱
	（時は五月，陽気は）ひどく halhūn です	天気暑熱
	或とても halhūn な日でした	一日熱天
	夜になっても少し halhūn でした	夜間有些余熱
	非常に蒸して halhūn でした	十分炎熱
	（部屋の中に人が多くて）halhūn で（やりきれない）	熱刺刺的
	（今）晩は蒸して halhūn なのに	晩熱刺刺的
	（その女は部屋の中が）halhūn でたまらず	害熱
	halhūn を避けようと	避炎暑
	halhūn を避け	避暑
	halhūn もうすらいで（秋になりました）	淡暑
	（道中この）halhūn に	大熱天
	（三伏の頃で）大変 halhūn です	六月初一日天気十分炎熱
	halhūn な日	天色暖
	このごろとても halhūn だ	十分炎熱
	それに（今日は）halhūn なもんだから（体が疲れて）	天気又熱
	大変 halhūn な時期で	天気十分炎熱
	部屋の中は halhūn である	房裡熱
	halhūn だからと言って（上着を脱ぎ）	害熱
〈女陰中の気〉	（男は相手の女の）陰門に一筋の halhūn な気を（感じ，それが自分の丹田にまで）	牝中一股熱気

〈湯気〉	（スープが）halhūn で湯気が立ちのぼり	熱騰騰
〈腹立ちの気〉	halhūn な気が血の処に居して【漢方の言葉】	熱入血室
〈死体〉	（死体が）halhūn のうちに	趁熱脚児
	（死体がまだ）halhūn だ	身上還熱
〈手〉	（手が）まだ halhūn にならない	還没握過来
〈身体〉	halhūn な身体	熱身子
	身体中が火のように halhūn だ【子供の発熱】	身上湯焼火熱的
	【子供の体に触ってみて】体中 halhūn だ	渾身発熱
〈症候の名〉	halhūn ならば šahūrabu- 致します【病気】	把那熱者凉之
	風・虚・šahūrun halhūn の症候	風虚寒熱之症候
〈炕〉	halhūn な炕（オンドル）	熱炕（3例）
	halhūn な炕（オンドル）	煖炕，暖炕（5例）
	とても halhūn な炕（オンドル）	焼的滚熱的炕児
〈寝台（炕の蒲団）〉	halhūn な寝台【炕（オンドル）】	煖床
〈部屋〉	halhūn な部屋	暖房
〈食べ物（料理）〉	halhūn な料理	熱菜
〈蒸した食べ物〉	（蒸したものが）halhūn のうちに	熱
〈飯〉	出来たばかりの halhūn なご飯	剛纔做的熱飯
	halhūn なご飯	熱飯
〈粥〉	（粥が）halhūn のうちに	熱烘烘
〈饅頭（まんとう）〉	halhūn な饅頭	熱饅頭
〈薬湯〉	（薬湯が）halhūn のうちに	乗熱
	halhūn な薬湯【身体のあたたまる薬】	煖薬
〈酒〉	お酒がとても halhūn ですよ	好煖酒児
	halhūn な酒	暖酒，煖酒（8例）
	halhūn な酒	熱酒(児)（4例）
	（酒を）halhūn に燗して	盪熱了
	酒を halhūn に燗して	炮熱了

halhūn に燗をしてぬくぬくほかほかになったダラス酒

熱盪温和大辣酥

〈茶〉　halhūn なお茶　熱茶（2例）

（お茶の）うんと halhūn なのは（にんにくの臭いを消す）

熱的盪的

〈茶，水（湯）〉halhūn なお茶やお湯　熱茶熱水

〈牛乳〉　（牛乳が）halhūn のうちに　滾熱

〈竈〉　halhūn な竈　熱竈（2例）

〈手炙り〉　手あぶりの中を halhūn に温めてあります

在薫籠内，薫的煖烘烘的

〈心〉　halhūn な心は（火のように燃えます）　熱心児

〈熱孝（喪）〉　halhūn な喪【父或は母が亡くなったばかりの喪】　熱孝

〈地面〉　halhūn な地面にいる蚯蚓（のようです）　熱地蜒蚰

〈下血〉　下の方がさっと halhūkan saka になってきましたので

下辺一陣，熱熱的来

〈糞〉（出したばかりで湯気のたっているような）halhūn な糞　熱屎（2例）

〈他の温度形容詞との連語，対語〉

beikuwen と halhūn が代る代る来ても　迭遷寒暑

halhūn のときに serguwen を求めるが如し　如熱思凉

halhūn のときに serguwen を願うが如し　如熱思凉

halhūn šahūrun を述べる【時候の挨拶をする】　敘寒温

halhūn šahūrun を訊ねた【時候の挨拶をした】　敘寒温

šahūrun halhūn を述べ【時候の挨拶をした】　敘説寒温

šahūrun halhūn を述べ【時候の挨拶をし】　敘寒暄吃

古今の halhūn šahūrun 悪いこと　古今炎凉悪態

halhūn とšahūrun，親密と冷淡　炎凉冷煖紛紜

halhūn を贈り šahūrun を盗み【男女の密通】　送暖偸寒

甘い言葉は冬でも halhūn であるが，陰口で人を傷つければ

六月でも šahūrun だ　　甜言美語三冬暖，悪語傷人六月寒

以上の用例に見るように， halhūn は非常に多くの対象物に用いられており，高温の「対象物の温度」を示すものかと思われるが，〈天，時候，気温〉と分類した部分では「体温感覚」ではないかとも考えられる。日本語のアツイに或程度近い意味かと思われる。假にこの程度の考えで他の温度形容詞に進み，後に各形容詞全体の体系も考量したい。

○ halukan（halukasaka　1例を含む）

〈天，時候，気温〉

（旅中，寒ければ轎に乗り）halukan ならば（馬に乗り）　天暖

日は次第に長くなって halukan になり　日舒長煖澡

halhūn な日を halukan と言います　天色暖謂之暄

その日は halukan でよい天気なので　天気融和

〈陽気〉　halukan な気は春のようです　気暖如春（2例）

〈風〉　halukan な風　煖風

〈子宮〉　子宮を halukan にする（薬）　暖宮

〈寝台〉　halukan な寝台【オンドルの寝台】　煖床

〈蒲団〉　halukan な掛け蒲団　熱被窩児

（蒲団を）湯たんぽで halukan に温めて（寝かせました）

用湯婆熨的被窩暖洞洞的

〈帳〉　錦の帳ようやく halukan になり　錦幄初温

〈靴下〉　halukan な湾曲した玉のような靴下がかわいい

一湾煖玉凌波小

〈部屋〉（あちらの廂房のほうが）少し halukan です　還暖些

halukan な部屋　煖房児，暖房（2例）

〈酒〉　ちょっと燗をして halukan にしてください　再盪熱着些

〈淫水〉　淫水 halukasaka なのがひとしきり溢れ

那浪水熱熱一陣流出来

〈他の温度形容詞との対語，連語〉

甘い言葉は冬でも halukan だが，陰口で人を傷つければ六月でも šahūrun だ　　甜言美語三冬煖，悪語傷人六月寒

以上に見るように，halukan は halhūn に比べて出現度数が低くやや判断に難があるが，やはり「対象物の温度」と「体温感覚」の両方に係わると考えられる。halhūn は「対象物の温度」の場合はかなり高い温度であり，不用意に接触すれば，火傷する可能性も有るほどであろうし，また「体温感覚」の時は不快感が伺われた。しかし，halukan はそれよりは一般に温度が低く，「体温感覚」としては快感だと思われる。halukan はポカポカとした春の陽気がその典型であり，決して≪暑い≫のではない。日本語に強いてあてれば，アタタカナ，アッタカイに近いように思われる。

○ beikuwen

〈天，時候，気温〉

beikuwen にどうして我慢できよう	這一冷怎麼当
beikuwen に耐える竹	耐寒君子竹
ひどい beikuwen（な時）に	寒冬臘月
ひどい beikuwen（な時）に	厳寒
冬の beikuwen（な時）にもいいわ	過冬省的耐冷
beikuwen が寝床にやって来る	冷侵牀
beikuwen だといけないわ（と言って火鉢をもって来させた）	只怕冷
beikuwen だから（と言って着物を出して着せてくれた）	因害冷
（風が吹き始めて）ひどく beikuwen になった	十分厳寒
夜もしや beikuwen だといけないから	只怕夜深了冷
この客間は beikuwen だ	這客位内冷
道中 beikuwen だと	一路天寒

（外は雪が降っているので）ひどく beikuwen だ　好不寒冷
ここは beikuwen ですから（奥の部屋へお入り下さい）這里冷
ひどく beikuwen だから（一杯位飲んだっていい）　大寒
（入って見ると）ひどく beikuwen で（寝台には埃が積っています）　但覚冷気侵入
（こんな薄着してちゃ）beikuwen じゃない?　不寒冷麼
風が吹き beikuwe- なのを　風色甚冷
（今度の旅は）beikuwen でもあり（また種々恐ろしいことにも出会った）　寒冷天気
（もう少し炭を足せ）今日はひどく beikuwen だ　今日天気甚是寒冷
beikuwen な日（を料峭と申します）　天色寒謂之料峭
beikuwen な夜に（茶もなく）　寒夜
beikuwen な時なので（燈をつけて互いに見ながらセックスできないわ）　寒冷
ひどい beikuwen な時に（ひどい風の中を下男を東京へやって）　大冷天
beikuwen で（風邪を引くといけないと言って）　天気寒冷
冬の beikuwen な時に　冬寒時月

〈威（気）〉　ひどい beikuwen な威気が侵み込んで来た　急颼颼冷気侵入

〈小屋〉　beikuwen な小屋の中で　冷々之中
beikuwen な小屋　冷舖（5例）

〈他の温度形容詞との対語，連語〉

beikuwen と halhūn が代る代る来ても　迭遷寒暑
この beikuwen で šahūrun な時に　冬寒時月
この beikuwen で šahūrun な時に　這的冷呵呵的
この冬の beikuwen で šahūrun な時に　冬寒時月

ちょうど beikuwen で šahūrun な時なので 已是数九厳寒之際

beikuwen で šahūrun なばかり　　冷合合的

beikuwen は山本謙吾『満洲語口語基礎語彙集』(1969) に≪冷たい≫となっているが，上の例から見ると寧ろ≪寒い≫のほうが近いのではないか。動詞beye-（およそ≪冷える，風邪を引く≫程度の意味）の用例も多いが，今回は紙幅の都合もあり触れないことにする。

上に見るとおり出現度数が 30 そこそこで，そのうち beikuwen 25 例と動詞 beikuwe- 1 例が〈天，時候，気温〉の分類に入っている。1 例の≪beikuwen な威≫（原漢語「冷気」）も「体温感覚」に属するかもしれない。日本語で言えば，サムイの如き意味かと思われる。6 例有る beikuwen tatan≪beikuwen な小屋≫（原漢語「冷舗」5 例と「冷々之中」1 例）は固まった表現であろう。≪寒々とした小屋≫であろうか。

○šahūrun（šahūrukan および動詞 šahūra- を含む）

〈天，時候，気温〉1 例しかない šahūrukan は，実際には šahūruka になっているが，一応誤刻として，本稿では šahūrukan で表す。

šahūrun ですから（粗酒を用意致しましたのをどうか）　寒天

šahūrun だから（もう一杯飲んでペアにして頂戴）　天気寒冷

（折しも秋深い頃）丁度 šahūrun で（日は短く）　天寒

どうしてこんなに急に šahūrun になったのかしら

怎的這一回子恁凉凄凄的起来

霜が降りても šahūrun でない　霜来恐不寒

〈威（気）〉　（糠雨に緑の林は濡れ霜甚だしく）šahūrun の威増す　寒天気

〈風〉　šahūrun な風　陰風

šahūrun な風　寒風

šahūrun な風　冷気

šahūrun な風　冷風（2 例）

šahūrun な風　凉飆

	šahūrun な風	凉風
	さっと吹くšahūrun が扇にやってくる	颯颯凉侵扇
〈息，空気〉	（さっという）šahūrun な風が（顔に吹付けて）	寒飆
	（精液も尽きて継いで血が，血も尽きて）šahūrun な気ばかりが（出て）【西門慶腎虚の場】	冷気
	šahūrun な気が（singkeyen になって，雪が降りそうな気配）	冷気
	（忽ち一陣の）šahūrun な風が吹いて来て	冷気
	（口から）šahūrun な息を（出し，体中火のように熱い）	冷気
	（鼻からも口からも）šahūrun な息が（出て，陰門からは淫水夥しく流れ出て…男の体の上でこと切れました）【春梅腹上死の場】	凉気
〈烟〉	波の上に šahūrun な烟気が立ちこめている	波上寒烟砌
〈死体の四肢〉	四肢は šahūrukan になって硬直し	四肢氷冷
〈手足〉	手がなんて šahūrun なんだろう	好冷手
	両手とも šahūrun になってしまった	手氷冷的
	šahūrun な手では（熱い饅頭はつかめない）	冷手
	怒りで両手が šahūra- するほどでした	把両隻手気的氷冷
	足が šahūra- して伸せません	腿児触冷
	（金の輪を手にはめて子供の）手が šahūra- してはいけないから	生怕氷着他
	手が šahūra- してはいけない	怕氷了他手
	手が šahūra- してしまいますわ	氷着他
	わたしは腹がたって手まですっかり šahūra- になって	気的我手也冷了
〈身体〉	独り臥して玉の身体は šahūra- して	獨臥玉肌凉
〈舌尖〉	【オルガスムで】女の舌の尖が氷のように šahūrun になって	

舌尖氷冷

【オルガスムで】女の舌の尖が氷のように šahūra- になって

舌尖氷冷（3例）

〈歯〉　（氷で冷した梅湯を飲むと…胸も気持よく）歯も šahūra- になった　泌歯

〈唇〉　（隋何のように辯に長けていても）歯をくいしばって唇が šahūra- になってしまったら【死んでしまったら】歯冷唇寒

（ちょっと口を持っといで）šahūrun なのを温めてやろう【接吻させろ】　与我個嘴温温寒着

〈症候の名〉　šahūrun や halhūn の病い　寒熱之症候

šahūrun と胸苦しさの病い　気寒之疾

風と šahūrun に当って【風邪を引いて】　掉了風寒

〈陶磁器の腰掛〉その瀬戸物の腰掛は šahūrun よ　那凉墩児只怕冷

どうして šahūrun を恐れるのさ【šahūrun だって構やしないわ】　不怕氷了胎

〈蒲団，枕〉　簟枕（竹・草で編んだ枕）šahūrun で　簟枕凉

（月の光が紗の窓を通って）蒲団と枕が šahūra- になっている

衾枕寒

〈小屋，部屋〉（ついてない私をこの）šahūrun な部屋に（おっぽりだして）

冷屋

（どこかの猪八戒がやって来て）šahūrun な小屋に（いるみたい）　冷舖

šahūrun な小屋で（氷水をごちそうしてくれる）　冷舖

〈窓〉　（貧乏書生たちは）šahūrun な窓の下で（三年苦労して）

在寒窓之下

〈もの（食べ物）〉（今日はどうして）生のšahūrun な物ばかり食べるの　吃生冷

（あたしのお腹の中には余計な物はないから）šahūrun なもの（食べたって平気よ）　冷糕

〈飯〉　šahūrun なご飯　冷飯（2例）

〈果物〉　（氷水を飲んだり）šahūrun な果物を（食べたり）　生菓子

〈桃〉　（鉢に）šahūrun な桃を（冷し）　浸氷桃

〈薬湯〉　（薬湯を持ってきても飲みません。）放っておいて šahūrun になってしまいました　都放冷了

〈酒〉　šahūrun な酒　冷酒（2例）

一杯注いで（盃に）触ってみるとひどく šahūrun なので　斟了一鍾，摸了摸氷凉的

〈茶〉　茶は šahūrun になっていてもう飲めません　嫌茶冷不好吃

お茶は少し šahūrun になりました　茶略冷了些

šahūrun な茶を（とってぐっとあおると）　冷茶

〈水〉　（矛を収めて戦いをやめようと思えば）šahūrun な水を飲むと　冷水

šahūrun な水を（汲んで来させるから）　凉水

（菊花酒を温める前に一本の）šahūrun な水を（混ぜ）　凉水

šahūrun な水の中から引張り出したよう　如提在冷水盆内

šahūrun な水の桶に坐っているみたい　如提在冷水盆内一般

総身に šahūrun な水を浴びたよう　如提在冷水盆内一般

桶一杯の šahūrun な水を浴びたよう　猶如一桶水

頭から šahūrun な水を浴びたよう　似提在冷水盆内一般

〈氷〉　地面には凍てついた šahūrun な氷が　寒氷

šahūrun な氷の地獄　寒氷地獄

〈汗〉　šahūrun な汗　冷汗（4例）

〈竈〉　šahūrun な竈　冷竈（2例）

〈鍋〉　šahūrun な鍋　冷鍋（2例）

〈心，気持〉　他の嫂さんがたのお気持が šahūrun になるといけませんよ　恐一時冷淡了別的嫂子們心

お前の心を滅入らせ šahūrun にした　丢冷了你的心

（二人とも）心が šahūrun になってしまいました

把心来冷淡了

šahūrun な心は（動かないこと孤舟の如し）　冷心

四海の内，心は šahūrun になった【戦慄した】四海為之寒心

〈冷笑〉　šahūrun に笑って　冷笑（6例）

šahūrun に笑い　冷冷笑

〈地面〉　šahūrun な地べた　冷地下（2例）

šahūrun な地べたでお前さん šahūra- してしまうよ

冷地下氷着你

〈苔〉　šahūrun な苔に靴下が濡れ　蒼苔氷

〈寒雁〉　šahūrun な雁　寒雁

〈寒梅〉　šahūrun な梅　寒梅

〈寒色〉　（紅い日が窓を通して射し）šahūrun な色も薄らいだ　寒色浅

〈落葉(臙脂)〉　散った紅(葉)は地に満ちて臙脂のように šahūrun である

落紅満地臙脂冷

〈他の温度形容詞との連語〉

halhūn šahūrun を問う　敘寒温

halhūn šahūrun を述べる　敘寒温

šahūrun halhūn を告げる　敘寒暄

šahūrun halhūn を述べる　敘説寒温

halhūn と šahūrun，親密と冷淡　炎凉冷煖

古今の halhūn šahūrun 悪いこと　古今炎凉悪態

halhūn を贈り šahūrun（男）を盗み　送暖偸寒

甘い言葉は冬でも halhūn であるが，陰口で人を傷つければ六月でも šahūrun だ　甜言美語三冬暖，悪語傷人六月寒

甘い言葉は冬でも halukan だが，陰口で人を傷つければ六月でもšahūrun だ　甜言美語三冬煖，悪語傷人六月寒

この beikuwen で šahūrun な時に　冬寒時月

この beikuwen で šahūrun な時に　　這的冷呵呵的
丁度 beikuwen で šahūrun な時なので　　已是数九厳寒之際
この冬の beikuwen で šahūrun な時に　　冬寒時月
beikuwen で šahūrun なばかり　　冷合合的
彩りある部屋（女性の閨）は人けなく šahūrun で　　画閣凄凉
（梅湯を飲んだら）骨もぞくぞくする šahūrun で　　湃骨之凉

šahūrun は halhūn と同様に非常に多くの物に附くが，beikuwen は≪小屋≫以外には殆ど物に附かない。すなわち šahūrun は多くの「対象物」の「温度」と見られ，日本語のツメタイのようなものかと思われる。しかし，〈天，時候，気温〉と分類した所にも他の温度形容詞と共存しない 84 例中僅か 5 例ではあるが入っている。これも下に見るように一応「対象物の温度」と考えられなくもない。

〈天，時候，気温〉と考えられる 5 例を，前後を含めやや詳しく挙げる。

lin-ši hendume, amba niyalma -i eldembume enggelenjire be sarkū ofi umai belhehekū, abka šAHūRUN de, ainame emu hūntahan nitan nure belhehengge majige gūnin okini serengge dere,

（59 回 32 丁裏）

≪林氏は申します。「貴方様の御光臨を存じ上げないものですから，なにも準備いたしておりません。**冷える時ですから**，ほんの僅かばかりの粗酒を用意いたしましたのを気持だけと思ってくださいまし」≫

林氏道，不知大人下降，没作整備，**寒天**聊具一杯水酒，表意而已，

tere hehe geli emu hūntahan tebufi hendume, abka šAHūRUN be dahame, ecike juru ojoro hūntahan be omi.　（2 回 6 丁裏）

≪女はもう一杯注いで申します。「**今日は冷えるから**，二郎さん，もう一杯飲んでペアにして頂戴」≫

那婦人又篩一杯来説道，天気**寒冷**，叔叔飲過成雙的盞児，

jing bolori šumin -i ucuri, jin【erin か】šAHūRUN šun foholon ofi emu inenggi arkan ninju nadanju ba yabume, yamjire onggolo

tatara boo be baifi tatafi, jai inenggi geli yabumbi. (84回2丁裏)

≪折しも秋深い頃，**冷え冷えとした時で**日も短く，一日にやっと六七十里【日本の十里余】ほど進み，日の暮れないうちに宿を探して泊り，次の日また出かけます≫

那秋深時分，**天寒**日短，一日行両程，六七十里之地，未到黄昏，投客店村房安歇，次日再行，

u-yuwei-niyang hendume, ainu uttu gaitai šAHūRUN ohoni lai-an dalbade bifi hendume, tule abka tulhušefi nimarambi.

(46回10丁裏)

≪呉月娘は申します。「どうしてこんなに急に**冷えて来た**のかしら」来安がそばから申します。「外は陰って雪が降っていますよ」≫

月娘便道，怎的這一回子恁**凉凄凄**的起来，来安児在傍説道，外辺天寒下雪哩

yebcungge sarin de fulu antaha akū,

wesihun dere de antaha boihoji be acabuha.

emu malu de sure mederi be tucibuhe.

jakūn hiyase de irgebure falan be ejelehe.

gisun akūnaci šun mukdeke gese.

gecen bihe seme šAHūRUN ojorakū,

wang-še gese giohame yabuha turgunde,

ferguwecuke okto be tugi suwaliyame jeke. (49回1丁表)

≪風流な宴に余分な客はいない，厚情にて主客を打解けさせた，一樽で知恵の海を顕し，八斗で詩壇を我が物とした，言葉を尽していると夜が明けるようだ，霜が降りても**何でもない**，王舎のように乞食して回っているので，霊薬を雲ごと飲んだから≫

雅集無兼客　高情洽二難　一尊領智海　八斗擅吟壇

話到如生旭　霜来恐不**寒**　為行王舎乞　玄屑帯雲食

この最後の詩は，第49回，即ち前半は西門慶が宋巡按を迎えて宴会を催したこ

と，後半は乞食梵僧を供応して西門慶の命取りになる媚薬をもらったことを叙した回，その冒頭に載せられている。夜を徹して詩宴を催していると明け方の寒さも何でもないということと，乞食して廻る梵僧は寒気に対しても霊薬の力で何でもない，ということとが係わっているのであろう。直訳して「šahūrun にならない」となる所を≪何でもない≫と訳したが，≪ぶるっと震えるほどのこともない，平気だ≫のようなものかと思われる。多くの用例から見ても，šahūrun には、主体的にサムイのではないが，低温により体内的温度調節機構で震えが起る，というような客体的な「対象物の温度」に係わる場合もあるように思われる。

よくは分らないのであるが，上の5例はいずれも beikuwen と違い，自分自身の直接の「寒さ」ではなく，「今日は冷える日だ」「今は低温の時節だ」というような対象物を外から眺めたような表現と取れなくもない

šahūrun も，halhūn や halkan と同様に「対象物の温度」と「体温感覚」との両方に係わるとし，beikuwen を「体温感覚」専用と見ることも出来そうに思われるが，šahūrun の用例中に「体温感覚」としうるものが相当少なく，また beikuwen の用法とは違うようにも思われるので，šahūrun は一応ここでは「対象物の温度」専用としてみた。

beikuwenの用例では不快感があらわに感じられるように思われるが，šahūrun の方は特にそうとも見えない。或は beikuwen は25例も〈天，時候，気温〉に用いられているのに，šahūrun はこの分類項目中には5例しか入っていなくてよく分らないから，というべきなのかもしれない。

šahūrun と beikuwen が共通に附くのは，≪時≫と≪小屋≫と≪天≫及びいわば≪天≫の略されたような意味の時だけである。しかし，šahūrun が連体的に≪時≫erin に附く時には必ず beikuwen が必要であり，šahūrun だけでは erin に附かないのである。≪小屋≫は beikuwen の時は tatan に限られ，šahūrun の時は pu　1例と boo　4例がある。beikuwen　tatan は固まった表現のようでもある。

○ bulukan, buluka

〈死体〉　体に触ってみるとまだ buluka だった　我摸他身上還温温児

体もまだ bulukan で静かに死んでおります

体尚微温，悠然而逝

〈女陰〉　bulukan で，締っていて（…蓮の花のよう）　温緊

〈麺〉　（今奥で）bulukan な麺を（つくっている）　水麺

bulukan な麺　温麺

麺は bulukan なやつで　麺是温淘

〈酒〉　halhūn に温めほんわか buluka になったダラス酒

熱盪温和大辣酥

〈茶〉　bulukan な茶　温茶

よく分らないが，≪触れてみて温もりが感じられる≫という所か。「対象物の温度」には違いないと思う。halhūn より低く šahūrun よりは高い温度で「対象物の温度」用法となると，halukan の「対象物の温度」用法とどう違うのか。halukan は「対象物の温度」と「体温感覚」の両方の用法に係わるとはいえ，実際には「体温感覚」よりとも考えられ，その分だけ bulukan が halukan の「対象物の温度」の領域を占めているようにも感じられる。ただ bulukan の方が halukan より相当低温であると考えられる。まるきりツメタイのではなく，僅かに温感があるのであろう。

上の死体の例では，温度期待値（予想値）より高いようであるが，bulukan が一般的に温度期待値より高いとは必ずしも言えないと思われる。漢語の「温」は期待値より低温の場合にも使われる。

日本語のヌルイ，ナマヌルイのような悪い意味は必ずしも無いようである。少なくとも上の例の女陰は，潘金蓮の持物を褒めている所であるし，麺も悪く言っている脈絡ではない。4 節の〈麺〉の所でもう少し検討してみたいと思う。

○ serguwen, serkuwen, seruken 及び動詞 serguweše-

〈天，時候，気温〉（爽やかな宵）なんと serguwen なことか　好凉天

（ある日，九月の初旬）serkuwen な頃おい，西風（秋風）が吹きすさんでいました　天気凄凉，金風淅々

【芭蕉の茂みの下で】ここは serkuwen だわ　這答児裡到且是蔭凉

今やもう秋になり serkuwen になりました（それなのに毛皮裏の上着も質屋に入っております）　如今又是秋凉了

（夕日は沈み）小雨が降出し seruken になります　微雨生凉的時分

（花園で）serkuwen なうちに（仕事をしようと思って）赶早凉

serkuwen のうちに　赶蚤凉

朝 serguwen のうちに寝覚めると　新凉睡起

〈風〉　夕風の serguwen で（庭中清浄になった）　晩風凉

竹風の serguwen に（良酒を酔うまで飲みたい）　竹風凉

（丁度秋になって）serkuwen な風が爽やかな頃でした　金風薦爽

〈身体〉　（夜中に）šahūrun な汗が出たら，身体も seruken になりました　出了些冷汗，身上纔凉了

（あの媚薬を使うと）おなかの奥から seruken がまっすぐ鳩尾まで昇って　従子宮冷森森直掣到心上

〈轎〉　（夏用の）serkuwen な轎（に乗り）　凉轎

〈莫蓙〉　seruken な莫蓙を（敷き珊瑚の枕を置き）　氷簟

〈椅子〉　（小さい方の数寄屋に入って）serguweše- する椅子に掛けて　坐在一張凉椅児上

〈寝台〉　亭の中の serguweše- する寝台　亭内凉床

〈場所〉　それは西門慶が夏 serguweše-する場所です　乃西門慶夏月納凉之所

〈その他〉　蒲団や莫蓙を敷き枕を置いて serkuweše- して　舖着凉簟衾枕納凉

（軒下に立って）serguweše- しながら話合っております

歇涼一処説話

築山の裏の芭蕉の茂みに入って serguweše- していると

往山子後芭蕉深処納涼

〈他の温度形容詞との対語，連語〉

halhūn のときに serguwen を求むるが如し　　如熱思涼

halhūn のときに serguwen を願うが如し　　如熱思涼

以上の例から見ると，ほぼ「体温感覚」的な，心地よいすがすがしい温度で，日本語でいえばスズシイを連想させる。

上の〈身体〉の例の一つは，岩波文庫の『金瓶梅』（小野忍，千田九一訳 1973－74。以後「岩波訳」と略称）や講談社版『完訳金瓶梅』（岡本隆三訳 1971。以後「完訳」と略称）ではそれぞれ下に見るように「下腹が冷たくなって」「子宮がぞくぞく冷えて」と訳されているが，seruken を用いている以上，満洲語では「ぞくぞく冷えて」いるのではなく，体験できないが，≪腹の底からスーッとした感じが鳩尾までのぼって行く≫ような感じなのではないかと想像される。

si seibeni jan-šeng-giyoo sere oktobe baitalafi, dosimbuha manggi, damu wenjefi yojohošoro be alime muterakū bihe, adarame ere hūwašan -i okto de isimbi, dosimbuha manggi, hefeli fere ci SERUKEN šuwe niyaman -i jaka de isinafi, te beye gubci dele fejile yooni menereme fungke bi.（51 回 28 丁表）

「あなたがいつも使っている顫声嬌ね，あれを入れると，むず痒くってたまらなくなるけど，あの坊主の薬を入れると，**下腹が冷たくなって**，胸までのぼってゆくわ。一度でからだじゅうがすっかり痺れちゃった。…」（岩波訳 6 巻 35 ページ）

「あなたがいつも使っている顫声嬌をなかに入れると，ほかほかむずがゆくてたまらなくなるのに，坊主のこんどの薬をなかへいれたら，**子宮がぞくぞく冷えて**，胸までのぼっていくわ。いちどでからだじゅ

うがすっかりしびれちゃった。…」（完訳 2 巻 333 ページ）

怎如和尚這薬使進去，従子宮**冷森森**直掣到心上這一回把渾身上下都酥麻了

しかし，上の〈天，時候，気温〉中の次の 2 例だけは「快」とは言えまい。

te geli bolori dosifi SERGUWEN oho, beye de etuhe jibca be geli puseli de damtulahabi, （56 回 6 丁裏）

≪もうまた秋になって**すず風**がたっています（のに）身に着ける毛皮の上着も質に入っているんですよ≫

如今又是秋**凉**了，身上皮襖児，又当在典舗裡，

emu inenggi uyun biyai icereme abka SERKUWEN wargi edun dambihe. li-ping-el dobori emhun boode dedufi （60 回 2 丁裏）

≪ある日，それは九月初旬の**うすら寒い**頃おい，西風（秋風）が吹きすさんでおりました。李瓶児は夜，ひとりで部屋に寝ていましたが≫

一日九月初旬，天気**凄凉**，金風淅々，李瓶児夜間，獨宿房中，

以上のような例もあるが，形容詞 15 例中，他の 13 例は「快」といえるようである。しかし，この 2 例からも，少なくともこの形容詞に関しては「快」「不快」は関与していないと考えたい。

期待値（予想値）より極度にではなくとも低い温度を示すようにも思われる。

4．形容されている物から見た温度形容詞

次に，同じ被形容詞が種々の形容詞に使われている状態を見てみよう。およその所を（**図 1**）に示す。ほぼ同じ被形容物を「――」で繋いで表した。それ以上に間接的な関係は「 ---------- 」で示した。

問題は，被形容「語」なのか被形容「物」なのかであるが，満洲語は印欧語などに比べれば，被形容語を明示しないことが多く，今回は曖昧ながら，「被形容物」を中心にまとめた。種々の分類範疇も，また対語，連語の認定も全てかなり恣意的である。大方のご教示を得たい。

図を見てまず分ることは，halhūn と šahūrun が数においても種類において

halhūn	halukan	beikuwen (beikuwe-)	šahūrun (šahūra-)	bulukan	serguwen, serkuwen, seruken (serguweše-)
27 天,時候,気温	4 天,時候,気温	25(1)天,時候, 気温	5 天,時候,気温		8 天,時候,気温
	2 陽気（如春）	1 威（気）	1 威（気）		
	1 風		8 風		3 風
1 女陰中の気			6 息,空気		
1 湯気			1 烟		
1 腹立ちの気					
2 死体			1 死体の四肢（šahūrukan）	2 死体	
1 手			3(6) 手足		
3 身体			(1) 身体		2 身体
			1(3) 舌尖		
			(1) 歯		
			(2) 唇		
	1 子宮			1 女陰	
2 症候の名			2 症候の名		
					1 轎
					1 莫蓙
9 炕			2 陶磁器の腰掛		(1) 椅子
1 寝台	1 寝台				(1) 寝台
	2 蒲団		1(1) 蒲団,枕		
	1 帳				
	1 靴下				
1 部屋	3 部屋	6 小屋	3 小屋,部屋		(1) 場所
			1 窓		
1 食べ物			2 もの（食べ物）		
1 蒸した食べ物				3 麺	
2 飯			2 飯		
1 粥			1 果物		
1 饅頭（まんとう）			1 桃		
2 薬湯			1 薬湯		
16 酒	1 酒		3 酒	1 酒	
3 茶			3 茶	1 茶	
1 茶,水			8 水		
1 牛乳			2 氷		
			4 汗		
2 竈			2 竈		
1 手炙り			2 鍋		
1 心			4(1) 心,気持		
1 熱孝（喪）			7 冷笑		
1 地面			2(1) 地面		
			1 苔		
1 下血	1 淫水(halukasaka)				
2 糞					
			1 寒雁		
			1 寒梅		
			1 寒色		
			1 落葉（臙脂）		

(3) その他

（対語、連語）

○ 1 四時の寒暑 ********○
○ 2 熱きに涼を希求す〔如熱思涼〕**********○
○ 4 時候の挨拶〔寒温,寒暄〕**********○
○ 2 心,親密と冷淡〔炎涼〕**********○
○ 1 密通〔送暖偷寒〕**********○
○ 1 甘い言葉は暖,陰口は寒 **********○
○ 1 甘い言葉は煖,陰口は寒 ***○
○ 4 寒い *****○
○ 1 寒々とした様子 ○
1 孤閨 simacuka šahūrun
1 飲物 niyekšere šahūrun

（図 1）

も多いことである。同じ対象，対語，連語もこの両語にわたるものが一番多い。それにもかかわらず，〈天，時候，気温〉に限ると halhūn は beikuwen と相対するのである。ここに取上げた形容詞 6 語すべてに関連する対象物はないが，〈天，時候，気温〉は，度数が少なく且つ「対象物の温度」専用の感ある bulukan 以外の 5 対象に亙っている。もう少し具体的な対象で，なるべく多くのものに係わる形容詞を中心に取上げて，それらの意味の検討を試みてみよう。

〈酒〉これは halhūn，halukan，šahūrun，bulukan の四つの形容詞に係わる。最大 16 例ある halhūn は「燗をした酒」である。そのまま飲んで火傷するわけではないが，十分熱したものである。3 例ある šahūrun な酒は，すべて燗をしていない「冷や酒」である。中間の halukan の例は 1 例しかないが，次のようなものである。

lai-boo hendume, aša si mimbe omi seci, majige wenjeme HALUKAN obu sehe manggi, wang-lu-el ebuhu sabuhū nure be tampin de tebufi, gin-el be hūlafi nure be HALHūN wenjefi, (51 回 20 丁裏)

≪来保は「嫂さん，飲めとおっしゃるんなら，ちょっと燗をして halukan にしてください」と言いますと，王六児は急いでその酒をお銚子にもどし，錦児を呼んで酒を halhūn に燗して来させ，≫

来保道，嫂子你既要我吃再**盪熱着些**，那王六児連忙帰到壺裡，教錦児**炮熱**了，

すなわち，「ちょっと燗をして halukan に」というのは，やや遠慮した言い方なのではないか。言われた王六児は女中に halhūn に燗をさせている。

「1 例ある buluka(n)な酒」というのは下のようなもので，酒の温度に普通使うものではない。

tahūra yali sindaha hangse, HALHūN wenjefi nesuken BULUKA oho darasu -i jergi jaka kai. (2 回 30 丁表)

≪（あそこで賣っているものは，…）蛤の実を入れたおそばに，halhūn に燗をしてほんわか buluka になったダラス（という酒）でご

ざいます≫　　蛤蜊麺，熱盪温和大辣酥

王婆が西門慶にふざけて，阿呆陀羅経張りの調子で，きわどいものばかり並べ立てた文句の一節である。大辣酥は蒙古語の果実酒のことであろうが，満洲語訳文の darasu には或いは満洲語の dara≪腰≫の連想があるかもしれない。王婆のこの阿呆陀羅経は女陰づくしである。bulukan は，図1にもあるとおり，女陰をも形容している。

〈茶〉halhūn 4例，šahūrun 3例，bulukan 1例である。ふつう沸かしたお湯で halhūn なお茶を飲む。さめたお茶，冷えたお茶が šahūrun なお茶である。1例ある bulukan なお茶というのは次の如きものである。

siyei-hi-dai hendume, BULUKAN cai oci ele sain, hon HALHūN ningge oci suwanda ebeniyebufi wa bahabumbi　　(52回12丁表)

【幇間の応伯爵と謝希大が西門慶の所でご馳走になった後，小厮に，口をゆすぐから水を持って来てくれ，と言ってから】≪謝希大が言います「bulukan なお茶ならもっと好いな。うんと halhūn なやつだと，にんにくをゆすいで臭みもとれるしな」≫

謝希大道，温茶児又好，熱的盪的死蒜臭少頃

これも，さきの酒のときと同じく遠慮した遠回しな言い方なのかもしれない。この太鼓持ち，「水をくれ」「bulukan なお茶，ぬるいお茶でもいい」「うんと halhūn なお茶だとにんにくの臭いも取れる」と段々本来の要求に格上げして，結局熱いお茶を持って来させた。

〈死体〉halhūn が2例，šahūrukan な死体の四肢が1例，bulukan 2例である。

jibehun be neifi tuwaci, cira boco gūwaliyakakū, beye kemuni BULUKAN, nesuken -i ergen yadahabi.　　(62回36丁表)

≪蒲団をまくって見ると，顔の容子も変っていないし，体もまだ bulukan で，静かに死んでおります≫

被但見面容不改，体尚**微温**，悠然而逝

即ち，まだ温もりが無いわけではない，僅かに温かい，ということであろう。下の例は，bulukan と halhūn が同じ死体に対して使われている。

meng-ioi-leo hendume, bi terei beye be bišume tuwaci, kemuni BULUKA, ainci wajifi goidara unde, muse HALHūN be amcame etuku etuburakū, ai be aliyambi. （62 回 37 丁表）

≪孟玉樓が申します。「わたくし，身体に触ってみましたら，まだ buluka でしたわ。まだ亡くなって間もないんでしょう。わたくしたち，halhūn のうちに，着物を着せてやったらいいのじゃございませんかしら」≫

玉樓道，我摸他身上還**温温児**的，他纔去了不多回児，咱趁**熱**脚児，不替他穿上衣裳，還等甚麼，

これらの例だけで buluka(n)という形容詞が，「温度の期待値より高いことを意味する」と断ずることはできない。それは場面の意味と考えられる。その証拠に死体の温度が期待値より高いよく似た場面では，以下のように halhūn が用いられている例がある。上の例の場合よりもっと温度が高く，生きている人間を感じさせる程だという気持からであろう。

amba eniye si gala dosimbufi bišume tuwa. beye kemuni HALHūN kai

≪大奥さま，手を出してこの子の身体に触ってごらんなさいまし。まだ halhūn なんですよ≫ （59 回 31 丁表）

大媽媽你伸手摸摸他身上還**熱**哩

死んで時間が経てば当然 šahūrun になる。次の例の šahūruka は šahūrun の指小形 šahūrukan の誤刻であろう。

duin gargan šAHūRUKA šekefi, ergen sukdun mukiyehe dengjan-i gese ohobi. （26 回 32 丁表）

≪四肢は šahūrukan に硬直し，息は消えた燈のようになった≫

四肢**氷冷**，一気燈残

〈麺〉蒸した食べ物，飯，粥，饅頭（まんとう）など高温の場合すべて halhūn の用例しかないのに，麺は何故 bulukan なのだろう。『満文金瓶梅』にはたまたま下の「温麺，水麺」の3例しか出ていないからであろう。

si-men-king hendume, suweni juwe nofi šuwang-lu oci【efi か?】, amargi boode BULUKAN hangse arahabi. bi haha juse be takūrafi ganabufi muse jeki (52回11丁裏)

≪西門慶は申します。「きみたち二人，双六でもやっていてくれ，奥で bulukan な麺をつくっている。小厮に持って来させるから，みんなで食べよう」≫

西門慶道，你両箇打雙陸，後辺做着**水麺**，等我叫小厮拿来咱每吃，

そう言いながら，まもなく小厮の持ってきた料理は，大変豪華なご馳走。三人が席についてからようやく麺が三杯運ばれた。この麺には料理の汁，にんにく，醋を混ぜて食べている。「水麺」は『現代中国語辞典』（香坂順一編著 1982）に「ゆでたうどんを水にひたして冷たくしたもの」とある。しかし，上の例から見ると，この bulukan hangse はいわゆる炸醤麺の如きもので，「冷たく」はないと思われる。

deo si buda jembio, hangse jembio, puseli niyalma hendume, hangse BULUKAN ningge buda šanggiyan bele arahangge, cen-ging-ji hendume, bi hangse jembi sehe. goidahakū juwe ilan moro BULUKAN hangse benjihe manggi. (96回22丁表)

≪「兄弟，麺にするかい。それとも飯かい」（と侯林が経済にきくと，）番頭が，「麺は bulukan なやつで，飯は白米で作ったものです」と言います。「麺にしよう」と経済が答えました。まもなく二，三杯の bulukan な麺が出されますと≫

因問敬済，兄弟，你吃麺吃飯，量酒道，麺是**温淘**，飯是白米飯，敬済道，我吃麺，須臾掉上両三碗**温麺**上来，

さきの例は（旧暦の）4月21日のことで，やって来た太鼓持ちの謝希大が大汗

をかいて扇を使っているが，この例は2月頃で，部屋では炕に火が焚かれている。これも「冷たくした」“冷やしそば”とは考えにくいと思われる。bulukan hagse は，麺をゆでて水に浸してさました，わずかに温かみのあるものではなかろうか。

〈部屋，小屋，場所〉halhūn な部屋（boo）「暖房」1例は，なんらかの火の気，炕などで正に≪暖房されている部屋≫であろう。冬に西門慶が獅子街の自分の反物屋にやって来て，「奥の halhūn な部屋（暖房）に入って腰をかけた」（77回9丁裏）という。

しかし，温かい部屋（boo）は一般に halhūn より寧ろ halukan のようである。

tere ts'ang-cūn-u serengge, ama -i HALUKAN boo kai.

（28回7丁表）

≪あそこの藏春塢というのは，旦那様の halukan なお部屋なんですよ≫　那藏春塢是爹的**煖房児**,

ts'ang-cūn-u -i ejen -i tere HALUKAN booi bithei hiyase -i dolo baime baha.　（28回8丁表）

≪藏春塢の旦那様がお使いになる halukan なお部屋の文箱の中から出てきたんですよ≫　在藏春塢，爹**暖房**書箧内尋出来

この2例は，藏春塢という，西門慶家の庭の奥まった所に作ってある一室のことである。冬季用に炕の設備のある部屋ということか。岩波訳では「冬籠りの（冬籠りなさる）お部屋」となっている。

さきの獅子街の暖房もこの藏春塢も同じようなものかと思うが，何故一方は halhūn で，もう一方は halukan なのかよく分らない。暖房設備がかなり違うのか。獅子街の暖房は，話の時点で火が入っており，藏春塢は火が入っていないという違いはある。

次の1例は，あちらの廂房（はなれ）が halukan だ，と言っている。

kin-tung be wargi ashan -i bithei boode dere sinda, sadun tubade

genefi teki, tuba majige HALUKAN sefi, (76回20丁表)

≪琴童に西の廂房にテーブルを出させ,「どうぞ，あちらへいらしてお掛けください。あちらの方が少し halukan です」と言って≫

分付琴童西廂書房裏放桌児，親家請那裡坐，還暖些

〈風〉halukan な風が1例，šahūrun な風が8例，serguwen，serkuwen な風が3例ある。halukan な風（煖風）は春の風，8例もある šahūrun な風は，冬の風，冬も近づいて吹き始める風，幽霊の出るときに吹く風，「風寒」にあたって引く風邪の風，端午の節句の頃の扇の風も šahūrun であって，šahūrun は必ずしも不快でない。serguwen，serkuwen な風はみな爽やかで心地よい。

〈下血，淫水，女陰〉下血は halhūn で，淫水は halukan の系統というのは分るような気がする。女陰が bulukan というのも難しいが，そもそも bulukan が難しいのでやむを得まい。次の例がある。

yargiyan -i minggan tumen niyalmai buyere dosidara emu saikan jaka. BULUKAN, cira, amtangga, olhon, šu ilha -i adali.

(4回12丁表)

≪まことに千人万人の欲し貪る或る結構な代物。bulukan で引き締り，香りよくて乾なこと蓮の花のよう≫

真箇是千人愛萬人貪一件美物　温緊香乾口賽蓮

潘金蓮の持物を褒めて詠っているのであるが，よく分らない。olhon「乾」≪乾いた≫のがいい，というのも何かあるのか。王婆の阿呆陀羅経でも，「あそこで賣っているものは，油で揚げた阿満子（オーマンツ），乾いた（kataha）女陰みたような……」他家賣的，拖煎阿満子，乾巴子肉，……と言っている。

5．最後に

形容詞を問題にするのなら，日本語に見られような以下の如き人称の問題も考

慮しなければならない。

僕は寒い。

君は寒いかい?

君は寒いんじゃないかな。

×君は寒い。

×あついは寒い。

あいつは寒いんじゃないかな。

×あいつは寒いかい?

「体温感覚」の場合は≪寒い≫と≪寒がる≫のように動詞との関連も見なければならない。今その余裕もないが，筆者が一応「体温感覚」専用と見た beikuwen について，1人称・2人称・3人称で下のような用法の存在は確認できる。

si sargan juse de hendufi, jibehun sishe gamafi sektefi, tuwa majige dulembu, uttu akū oci BEIKUWEN de adarame hamimbi (23回13丁表)

≪お前，女中に言いつけて，蒲団を運ばせて，火をちょっとおこさせてくれ。そうしなくちゃ，【俺は】beikuwen でたまらない≫

你分付丫頭，拿床舖蓋，生些火児，不然，這一冷怎麼当

ecike uttu nekeliyen etuci, BEIKUWEN akūn. (2回7丁裏)

≪二郎さん，こんなに薄着してちゃあ【貴方は】beikuwen じゃないこと? ≫

叔叔只穿這些衣服，不寒冷麼

sakda baikū, yuwei-jiyei be hūlafi, si in-jiyei be anahūnjame tebu, BEIKUWEN ayoo, sargan juse be yaha majige dabufi gala filekini sefi (68回14丁表)

≪遣手婆は月姐を呼んで，「お前は銀姐に席を譲りなさい，【銀姐は】BEIKUWEN じゃないかしら（BEIKUWEN だといけないから）」と言って，女中に炭をちょっとおこさせて手を炙らせ，≫

鴇子叫月姐讓銀姐坐，只怕冷教丫頭燒箇籠来，与銀姐烤手児

次の二つの例も或は1人称の例になるかもしれない。

bi inu boode genefi jai emu etuku nonggime etuki, dobori aika BEIKUWEN ayoo sefi (24回5丁裏)

≪「わたくしも部屋へ行ってもう一枚着て来ますわ。夜もしやBEIKUWENだといけませんから」と言って≫

我也往屋裏，穿件衣裳，只怕夜深了冷

si sarkūn, tule nimanggi nimarame ofi, mujakū BEIKUWEN.

≪ご存知ありますまいが，外は雪が降っててひどくBEIKUWENですぜ≫（67回4丁表）　你不知外辺飄雪花児哩，好不寒冷

この他に見つかった温度形容詞はfiyakiyanであるが，下の1例しかなくて，何も考察を加えることができない。

kiyatar seme akjame, den alin haksan hada durgebume aššaha, HALHūN be obome, FIYAKIYAN be jailabume, usin -i jeku de singgeme dosika. (6回12丁表)

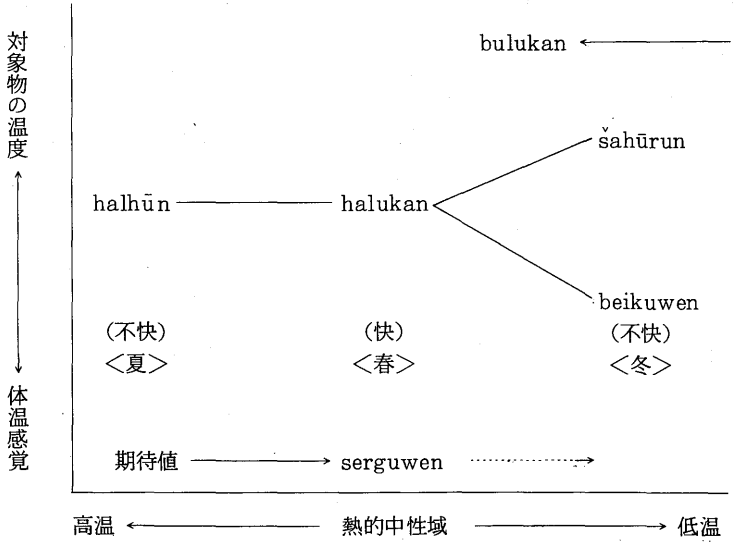
≪がらがらっと雷が鳴り，高山懸崖揺れ動く，halhūnを洗い流し，fiyakiyanを追払い，田の作物にしみこんだ。≫

霹靂交加，泰華嵩喬震動，**洗炎駆暑**，潤沢田苗

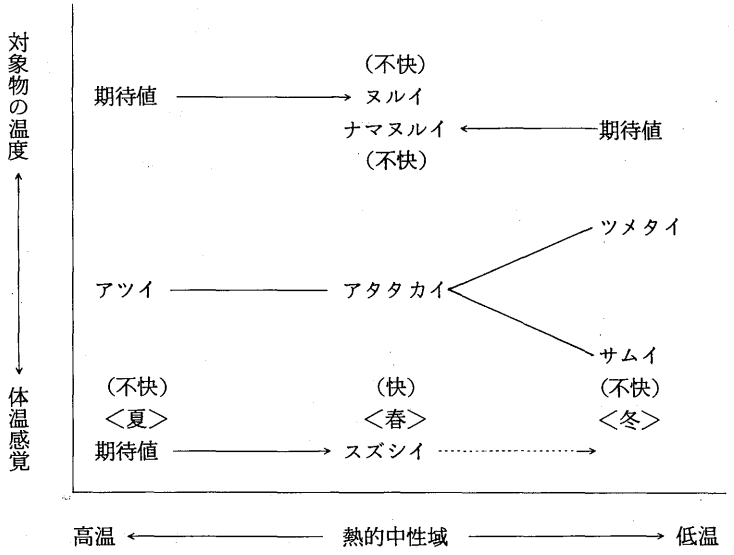
他に動詞形のfiyakiya-が2例あり，≪暑い≫に類するもののようであることは分る。

全体に分らないことが多すぎるし，どのように解釈し記述すべきか問題であるが，データの添物として，解釈の試みを（**図2**）に示す。

bulukanの対象物には制限があると思われるのであるが，資料が少なすぎる。tanggū meyen『百条』も全文調べてみたが，bulukanは全然用いられていない。今後，他に用例を集めてみるつもりである。上の形は日本語の温度形容詞にも或程度似ていると思われる。満洲語と一致するわけではないが，これも試みに（**図3**）を書いてみよう。


対象物の温度
体温感覚
bulukan
šahūrun
halhūn
halukan
beikuwen
（不快）
＜夏＞
（快）
＜春＞
（不快）
＜冬＞
期待値
serguwen
高温
熱的中性域
低温

（図２）


対象物の温度
体温感覚
（不快）
期待値
ヌルイ
ナマヌルイ
期待値
（不快）
ツメタイ
アツイ
アタタカイ
サムイ
（不快）
＜夏＞
（快）
＜春＞
（不快）
＜冬＞
期待値
スズシイ
高温
熱的中性域
低温

（図３）

参考までに，現在，新疆維吾尔自治区で話されている錫伯語の形と意味を下に示しておく。用例はすべて略す。資料は，年代順に『満洲語口語基礎語彙集』(山本謙吾著 1969「山本」と略す)，『錫伯語口語研究』(李樹蘭・仲謙・往慶豊編 1984「研究」と略す)，『錫伯語簡志』(李樹蘭・仲謙編著 1986「簡志」と略す)。「山本」のアクサングラーヴの付いた s はšで，スモールキャピの N は普通の N で，「研究」の髭の付いた h はχで，髭の付いた k は q で表す。

文語形	「山本」	「研究」	「簡志」
halhūn	haləhuN	χalχun	χalχun
	暑い，熱い．hot	①熱。②熱情。	熱(天気熱)
halukan	?	?	?
beikuwen	be'ikuN		
	(天候について冬にいう)		
	寒くない，あたたかい．		
	not quite freezing cold		
šahūrun	šahuruN, sahuruN	sahurun	saχurun
	寒い，cold	冷	冷(天気冷)
bulukan	boloqə, boloqu, boluqu	boloqu	boloqun
	(飲物について) なまあたたかい．	温，温暖．	暖和
	ぬるい．lukewarm		
serguwen	šerəxuN, serəxuN	serhun	sərχun
	涼しい．cool	涼爽，凉快．	凉快

この錫伯語の記述は，筆者の見た『満文金瓶梅』とはおよそ以下の点で違う。

1．halukan に当る単語が見あたらないこと

2．≪冷たい≫の訳語に当るものが見られないこと(「研究」は曖昧)

3．beikuwen に当る単語の意味が非常に違うこと

4．文語の bulukan に当る単語が「山本」では，「飲物について」となっていること

なお最近出版された『漢錫簡明対照詞典』（新疆人民出版社 1989）は，「東」を引いても wargi だけ，「西」を引いても wargi だけという面白い辞書であるが（清朝時代は「東」は dergi，「西」は wargi であったが，現代錫伯語では，「東」は wargi，「西」は dergi である）試みに，熱・暑・暖・温・冷・寒・凉，を引くと以下の如くである。（動詞は語幹形で示す）

熱　halhūn

暑　halhūn

暖　halukan, bulukan, wenje-

温　bulukan, bulukan kemun, bulukan obu-, urebu-

冷　beikuwen, šahūrun

寒　šahūrun

凉　serguwen

錫伯語は錫伯語として研究を続け，清朝時代の満洲語文語とどのように違うのか，精査したいものである。『満文金瓶梅』中の温度形容詞の資料を示すだけのつもりが，怪しげな解釈を大分加えてしまった。種々ご教示を請いたい。

付　全用例（数字は出現度数）

halhūn

〈天，時候，気温〉	1	HALHūN -i ucuri	伏暑天気
	1	HALHūN be amcame	熱
	1	erin HALHūN	天気暄熱
	1	abkai fejergi HALHūN be eime geterembure	掃除天下熱
	1	cohome emu ši banjibufi, ere HALHūN be gisurehebi.	有一詞単道這熱
	1	HALHūN be obome	洗炎駆暑
	1	ere HALHūN be ucarara jakade,	遇見天熱
	1	neneme udu HALHūN bicibe.	前日雖熱天
	1	sunja biyai erin, mujakū HALHūN	約五月天気暑熱
	1	emu inenggi mujakū HALHūN bihe	一日熱天
	1	dobori kemuni majige HALHūN bihe	夜間有些余熱
	1	ambula hūktame HALHūN bihebi	十分炎熱
	1	HALHūN	熱刺刺的
	1	dobori gūngkame HALHūN	晩熱刺刺的
	1	HALHūN de hamirakū	害熱
	1	HALHūN de jailaki	避炎暑
	2	HALHūN de jailame	避暑
	1	HALHūN eberefi bolori dosika,	淡暑新秋
	1	HALHūN erin	大熱天
	1	abka umesi HALHūN	天気十分炎熱
	1	HALHūN inenggi	天色暖
	1	ere ucuri ambula HALHūN	十分炎熱
	1	abka geli HALHūN ofi	天気又熱

	1	erin mujakū HALHūN ofi	天気十分炎熱
	1	booi dolo HALHūN	房裡熱
	1	HALHūN seme	害熱
〈女陰中の気〉	1	fefe -i dorgici emu jurgan HALHūN sukdun	牝中一股熱気
〈湯気〉	1	HALHūN sukdun burgašame tucime	熱騰騰
〈腹立ちの気〉	1	HALHūN sukdun senggi -i oron de tehe	熱入血室
〈死体〉	1	HALHūN be amcame	趁熱脚児
	1	beye kemuni HALHūN	身上還熱
〈手〉	1	kemuni HALHūN ojoro unde	還没握過来
〈身体〉	1	HALHūN beye	熱身子
	1	beye gubci tuwai adali HALHūN	身上湯焼火熱的
	1	beye gubci HALHūN	渾身発熱
〈症候の名〉	1	HALHūN oci, šahūrabure	把那熱者凉之
	1	edun yadalinggū, šahūrun HALHūN nimeku	風虚寒熱之症候
〈炕〉	3	HALHūN nagan（或は nahan）	熱炕
	5	HALHūN nagan（或は nahan）	煖炕，暖炕
	1	mujakū HALHūN nagan	焼的滚熱的炕児
〈寝台（炕の蒲団）〉	1	HALHūN besergen	煖床
〈部屋〉	1	HALHūN boo	暖房
〈食べ物(料理)〉	1	HALHūN booha	熱菜
〈蒸した食べ物〉	1	HALHūN be amcame	熱
〈飯〉	1	teni jakan araha HALHūN buda	剛纔做的熱飯
	1	HALHūN buda	熱飯
〈粥〉	1	HALHūN be amcame	熱烘烘
〈饅頭(まんとう)〉	1	HALHūN mentu	熱饅頭
〈薬湯〉	1	HALHūN be amcame	乗熱

	1	HALHūN okto	煖薬
〈酒〉	1	nure mujakū HALHūN	好煖酒児
	8	HALHūN nure	暖酒，煖酒
	4	HALHūN nure	熱酒(児)
	1	HALHūN wenjefi	盪熱了
	1	nure be HALHūN wenjefi	炮熱了
	1	HALHūN wenjefi nesuken buluka oho darasu	熱盪温和大辣酥
〈茶〉	2	HALHūN cai	熱茶
	1	hon HALHūN ningge	熱的盪的
〈茶，水（湯)〉	1	HALHūN cai muke	熱茶熱水
〈牛乳〉	1	HALHūN be amcame	滚熱
〈竈〉	2	HALHūN jun	熱竈
〈手炙り〉	1	fangšakū -i dorgi be HALHūN obume wenjehebi	在薫籠内，薫的煖烘烘的
〈心〉	1	HALHūN mujilen	熱心児
〈熱孝（喪)〉	1	HALHūN sinahi	熱孝
〈地面〉	1	HALHūN na de bisire beten	熱地蜒蚰
〈下血〉	1	fejile HALHūN saka emu jergi wasire jakade	下辺一陣，熱熱的来
〈糞〉	2	HALHūN hamu	熱屎

〈他の温度形容詞との連語，対語〉

	1	*beikuwen* HALHūN halanjame isinjicibe	迭遷寒暑
	1	HALHūN de *serguwen* be baire gese	如熱思凉
	1	HALHūN de *serguwen* be buyere adali	如熱思凉
	1	HALHūN *šahūrun* be gisurere	敘寒温
	1	HALHūN *šahūrun* be fonjiha	敘寒温
	1	*šahūrun* HALHūN be gisurehe	敘説寒温

1 *šahūrun* HALHūN be alafi 敘寒暄吃

1 julge te -i HALHūN *šahūrun* ehe demun 古今炎凉悪態

1 HALHūN *šahūrun* habcihiyan anduhūri yabun der sembi 炎凉冷煖紛紜

1 HALHūN be beneme *šahūrun* be hūlhame 送暖偸寒

1 jancuhūn icangga sain gisun, ilan tuweri seme HALHūN. ehe gisun -i niyalma be korobuci, ninggun biya seme *šahūrun* 甜言美語三冬暖，悪語傷人六月寒

halukan

〈天，時候，気温〉 1 HALUKAN oci morin yalume 天暖乗馬

1 šun ulhiyen -i same HALUKAN ome 日舒長煖澡

1 halhūn inenggi oci, HALUKAN sembi 天色暖謂之暄

1 tere inenggi HALUKAN sain ofi 天気融和

〈陽気〉 2 HALUKAN sukdun niyengniyeri adali 気暖如春

〈風〉 1 HALUKAN edun 煖風

〈子宮〉 1 jusei gung be HALUKAN obure muhaliyan okto 暖宮丸薬

〈寝台〉 1 HALUKAN besergen 煖床

〈蒲団〉 1 HALUKAN jibehun 熱被窩児

1 tang-po jafafi HALUKAN obume wenjefi 用湯婆熨的被窩暖洞洞的

〈帳〉 1 junggin -i jampan, teni HALUKAN ome 錦幄初温

〈靴下〉 1 emu HALUKAN gahūngga gu -i gese wase ajigen 一湾煖玉凌波小

〈部屋〉 1 tuba majige HALUKAN 還暖些

2 HALUKAN boo 煖房児，暖房

〈酒〉 1 majige wenjeme HALUKAN obu 再盪熱着些

〈淫水〉(halukasaka) 1 hayan muke HALUKASAKA emdubei eyeme
那浪水熱熱一陣流出来

〈他の温度形容詞との対語，連語〉

1 jancuhūn angga icangga gisun, ilan tuweri seme inu HALUKAN, ehe gisun -i niyalma de koro isibuci ninggun biya seme inu *šahūrun*
甜言美語三冬煖，悪語傷人六月寒

---

beikuwen

(動詞 beikuwe- を含む)

〈天，時候，気温〉 1 BEIKUWEN de adarame hamimbi 這一冷怎麼当

1 BEIKUWEN de dosoro cuse mo 耐寒君子竹

1 cak sere BEIKUWEN de 寒冬臘月

1 cak sere BEIKUWEN de 厳寒

1 tuweri BEIGUWEN de inu yebe 過冬省的耐冷

1 BEIKUWEN besergen de isinjimbi 冷侵牀

1 BEIKUWEN ayoo 只怕冷

1 BEIKUWEN seme 因害冷

1 cak seme BEIKUWEN ohobi 十分厳寒

1 dobori aika BEIKUWEN ayoo 只怕夜深了冷

1 ere antaha tere boo BEIKUWEN 這客位内冷

1 jugūn -i unduri BEIKUWEN oci 一路天寒

1 mujakū BEIKUWEN 好不寒冷

1 uba BEIKUWEN 這里冷

1 umesi BEIKUWEN de 大寒

1 umesi BEIKUWEN bime 但覚冷気侵入

1 uttu nekeliyen etuci, BEIKUWEN akūn 不寒冷麼
1 edun dame BEIKUWERE be 風色甚冷
1 abka BEIKUWEN bime 寒冷天気
1 enenggi abka umesi BEIKUWEN 今日天気甚是寒冷
1 BEIKUWEN inenggi 天色寒謂之料峭
1 BEIKUWEN dobori 寒夜
1 BEIKUWEN -i erin ofi 寒冷
1 cak sere BEIKUWEN erin 大冷天
1 erin BEIGUWEN 天気寒冷
1 tuweri BEIKUWEN -i erin de 冬寒時月

〈威（気）〉 1 cak sere BEIKUWEN horon beyede hafunjimbi 急颼颼冷気侵入

〈小屋〉 1 BEIKUWEN tatan -i dolo 冷々之中
5 BEIKUWEN tatan 冷舗

〈他の温度形容詞との対語，連語〉

1 BEIKUWEN *halhūn* halanjame isinjicibe 迭遷寒暑
1 ere BEIKUWEN *šahūrun* -i erin de 冬寒時月
1 ere BEIKUWEN *šahūrun* -i erin de 這的冷呵呵的
1 ere tuweri BEIKUWEN *šahūrun* -i erin de 冬寒時月
1 jing BEIKUWEN *šahūrun* -i erin ofi 已是数九厳寒之際
1 BEIKUWEN *šahūrun* manggi 冷合合的

šahūrun

（šahūrukan および動詞 šahūra- を含む）

〈天，時候，気温〉 1 abka šAHūRUN 寒天
1 abka šAHūRUN 天気寒冷
1 jin【erin?】šAHūRUN šun foholon 天寒日短

	1	ainu uttu gaitai šAHūRUN ohoni	怎的這一回子恁凉凄凄的起来
	1	gecen bihe seme šAHūRUN ojorakū	霜来恐不寒
〈威（気）〉	1	šAHūRUN horon nonggibumbi	寒天気
〈風〉	1	šAHūRUN edun	陰風
	1	šAHūRUN edun	寒風
	1	šAHūRUN edun	冷気
	2	šAHūRUN edun	冷風
	1	šAHūRUN edun	冷飆
	1	šAHūRUN edun	凉風
	1	šeo sere šAHūRUN fusheku de isinjimbi	颯颯凉侵扇
〈息，空気〉	1	šAHūRUN sukdun	寒飆
	4	šAHūRUN sukdun	冷気
	1	šAHūRUN sukdun	凉気
〈烟〉	1	boljon -i dele šAHūRUN šanggiyan sumaka	波上寒烟砌
〈死体の四肢（šahūrukan）〉			
	1	duin gargan šAHūRukan šekefi	四肢氷冷
〈手足〉	1	gala absi šAHūRUN	好冷手
	1	juwe gala gemu šAHūRUN ohobi	手氷冷的
	1	šAHūRUN gala de	冷手
	1	fancahai gala gemu šAHūRaka	把両隻手気的氷冷
	1	bethe šAHūRahai	腿児触冷
	1	gala šAHūRarahū seme	生怕氷着他
	1	gala šAHūRarahū	怕氷了他手
	1	gala šAHūRarahū dere	氷着他
	1	bi fancafi gala gemu šAHūRafi	気的我手也冷了
〈身体〉	1	emhun dedufi gu -i beye šAHūRame	獨臥玉肌凉

〈舌尖〉	1	ilenggu dube juhei gese šAHūRUN	舌尖氷冷
	1	ilenggu -i dube gemu šAHūRapi	舌尖氷冷
	1	ilenggu -i dube juhe -i gese šAHūRafi	舌尖氷冷
	1	ilenggu -i dube juhei gese šAHūRafi	舌尖氷冷
〈歯〉	1	weihe šAHūRaka	泌歯
〈唇〉	1	weihe jumpi, femen šAHūRaka de	歯冷唇寒
	1	minde angga gaji, šAHūRaka be wenjebuki	与我個嘴温温寒着
〈症候の名〉	1	šAHūRUN halhūn nimeku	寒熱之症候
	1	šAHūRUN cehun nimeku	気寒之疾
	1	edun šAHūRUN de goifi	掉了風寒
〈陶磁器の腰掛〉	1	tere yehere mulan šAHūRUN ayoo	那凉墩児只怕冷
	1	ai seme šAHūRUN de gelembi	不怕氷了胎
〈蒲団，枕〉	1	jijiri cirku šAHūRUN	簟枕凉
	1	jibehun cirku šAHūRaka	衾枕寒
〈小屋，部屋〉	1	šAHūRUN boo	冷屋
	1	šAHūRUN boode	冷舖
	1	šAHūRUN pu de	冷舖
〈窓〉	1	šAHūRUN fa -i fejile	在寒窓之下
〈もの（食べ物）〉	1	eshun šAHūRUN ningge jembi	吃生冷
	1	šAHūRUN jaka	冷糕
〈飯〉	2	šAHūRUN buda	冷飯
〈果物〉	1	šAHūRUN tubihe	生菓子
〈桃〉	1	šAHūRUN toro	浸氷桃
〈薬湯〉	1	sindahai šAHūRUN oho,	都放冷了
〈酒〉	2	šAHūRUN nure	冷酒
	1	emu hūntahan tebufi, bišume tuwaci umesi šAHūRUN	斟了一鍾，摸了摸氷凉的

〈茶〉 1 cai be šAHūRUN omici ojorakū 嫌茶冷不好吃

1 cai majige šAHūRUN oho 茶略冷了些

1 šAHūRUN cai be 冷茶

〈水〉 1 šAHūRUN muke 冷水

2 šAHūRUN muke 凉水

1 šAHūRUN mukei dorgici tucibuhe gese

如提在冷水盆内

1 šAHūRUN mukei fengse -i dolo tehe gese

如提在冷水盆内一般

1 beyede šAHūRUN muke buraha adali

如提在冷水盆内一般

1 emu hunio šAHūRUN muke buraha gese 猶如一桶水

1 uju de šAHūRUN muke buraha adali

似提在冷水盆内一般

〈氷〉 1 nade gecehe šAHūRUN juhe 寒氷

1 šAHūRUN juhe na -i loo 寒氷地獄

〈汗〉 3 šAHūRUN nei 冷汗

1 šAHūRUN taran 冷汗

〈竈〉 2 šAHūRUN jun 冷竈

〈鍋〉 2 šAHūRUN mucen 冷鍋

〈心，気持〉 1 gūwa aša sai mujilen šAHūRUN ojorahū

恐一時冷淡了別的嫂子們心

1 sini mujilen be usatala šAHūRUN obuha

丢冷了你的心

1 mujilen šAHūRUN oho 把心来冷淡了

1 šAHūRUN mujilen 冷心

1 duin mederi dorgi mujilen šAHūRakabi

四海為之寒心

〈冷笑〉	2	šAHūRUN injefi	冷笑
	4	šAHūRUN injeme	冷笑
	1	šAHūRUN injeme	冷冷笑
〈地面〉	2	šAHūRUN na	冷地下
	1	šahūrun na de si šAHūRarahū	冷地下氷着你
〈苔〉	1	šAHūRUN niokji	蒼苔氷
〈寒雁〉	1	šAHūRUN niongniyaha	寒雁
〈寒梅〉	1	šAHūRUN mei	寒梅
〈寒色〉	1	šAHūRUN boco simacuka	寒色浅
〈落葉（臙脂）〉	1	sihaha fulgiyan na de jalufi fiyan –i adali šAHūRUN oho	落紅満地臙脂冷

〈他の温度形容詞との連語〉

1	*halhūn* šAHūRUN be fonjiha	敘寒温
1	*halhūn* šAHūRUN be gisurere	敘寒温
1	šAHūRUN *halhūn* be alafi	敘寒暄
1	šAHūRUN *halhūn* be gisurehe	敘説寒温
1	*halhūn* šAHūRUN habcihiyan anduhūri	炎凉冷煖
1	julge te –i *halhūn* šAHūRUN ehe demun	古今炎凉悪態
1	*halhūn* be beneme šAHūRUN be hūlhame	送暖偸寒
1	jancuhūn icangga sain gisun, ilan tuweri seme *halhūn.* ehe gisun –i niyalma be korobuci, ninggun biya seme šAHūRUN	甜言美語三冬暖，悪語傷人六月寒
1	jancuhūn angga icangga gisun, ilan tuweri seme inu *halukan*, ehe gisun –i niyalma de koro isibuci ninggun biya seme inu šAHūRUN	甜言美語三冬煖，悪語傷人六月寒
1	ere *beikuwen* šAHūRUN –i erin de	冬寒時月

1 ere *beikuwen* šAHūRUN -i erin de 這的冷呵呵的

1 jing *beikuwen* šAHūRUN -i erin ofi

已是数九厳寒之際

1 tuweri *beikuwen* šAHūRUN erin de 冬寒時月

1 *beikuwen* šAHūRUN manggi 冷合合的

1 niruha booi *simacuka* šAHūRUN 画閣凄凉

1 giranggi *niyekšere* šAHūRUN de 湃骨之凉

bulukan, buluka

〈死体〉 1 terei beye be bišume tuwaci, kemuni BULUKA

我摸他身上還温温児

1 beye kemuni BULUKAN 体尚微温

〈女陰（蓮の花のような）〉

1 BULUKAN, cira, amtangga, olhon, 温緊

〈麺〉 1 BULUKAN hangse 水麺

1 BULUKAN hangse 温麺

1 hangse BULUKAN ningge 麺是温淘

〈酒〉 1 halhūn wenjefi nesuken BULUKA oho darasu

熱盪温和大辣酥

〈茶〉 1 BULUKAN cai 温茶

serguwen, serkuwen, seruken

（serguweše- を含む）

〈天，時候，気温〉 1 abka absi SERGUWEN 好凉天

1 abka SERKUWEN wargi edun dambihe

天気凄凉，金風淅々

1 ubade dule SERKUWEN biheni

這答児裡到且是蔭凉

1 te geli bolori dosifi SERKUWEN oho 如今又是凉了

1 ser seme agame SERUKEN oho manggi 微雨生凉的時分

1 SERGUWEN be amcame 赶早凉

1 SERKUWEN be amcame 赶蚤凉

1 ice SERGUWEN de amgafi geteci 新凉睡起

〈風〉 1 yamji edun -i SERGUWEN de 晚風凉

1 cuse moo -i edun SERGUWEN de 竹風凉

1 SERKUWEN edun šeo sere ucuri bihe 金風薦爽

〈身体〉 1 šahūrun nei tucifi, beye teni SERUKEN oho 出了些冷汗，身上纔凉了

1 hefeli fere ci SERUKEN šuwe niyaman -i jaka de isinafi 従子宮冷森森直掣到心上

〈轎〉 1 SERKUWEN kiyoo 凉轎

〈莫蓙〉 1 SERUKEN jijiri 氷簟

〈椅子〉 1 emu SERGUWEšEre ise de tefi 坐在一張凉椅児上

〈寝台〉 1 tingse -i dorgi SERGUWEšEre besergen 亭内凉床

〈場所〉 1 tere si-men-king ni juwari SERGUWEšEre ba 乃西門慶夏月納凉之所

〈その他〉 1 sishe jijiri sektefi cirku sindafi, SERKUWEšEme 鋪着凉簟衾枕納凉

1 SERGUWEšEme ishunde gisurembi 歇凉一処説話

1 alin -i amargi ba-jiyoo -i bujan de dosifi SERGUWEšEre 往山子後芭蕉深処納凉

1 *halhūn* de SERGUWEN be baire gese 如熱思凉

1 *halhūn* de SERGUWEN be buyere adali 如熱思凉

Adjectives of Temperature in Classic Manchu: Data and a Tentative Analysis

Teruhiro Hayata

All the occurrences of six main adjectives of temperature are given from the Manchu version of *Jin-Ping-Mei* (The Golden Lotus), which consists of approximately 50,000 lines, in addition to a tentative analysis of semantics. Two adjectives meaning high temperature, *halhūn* (99 occurrences) and *halukan* (19 occurrences), roughly correspond to English *hot* and *warm*, respectively. There are two adjectives for English *cold*: *beikuwen* (38 occurrences) and *šahūrun* (89 occurrences). *Beikuwen* is used exclusively for weather, season, and atmospheric temperature, with an uncomfortable connotaion, while *šahūrun* is used for all things — wind, ice, water, tea, wine, cooked rice, earth, oven, pottery stool, room, hut, (other person's) body, (other person's) limbs, dead body, etc., and also weather, with either a good or bad connotaion. *Serguwen* (26 occurrences) can be translated as *cool* in English, as in "cool weather". It is used only for weather and atmospheric temperature. *Bulukan* occurs only eight times, three in reference to a kind of noodle, two for a dead body, one each for wine, tea, and the vulva. English *lukewarm* may be similar to it. The connotaion of *bulukan* is not always bad.

The semantic system or organization of adjectives of temperature in Manchu seems to be rather more similar to that of Japanese than to that of English.